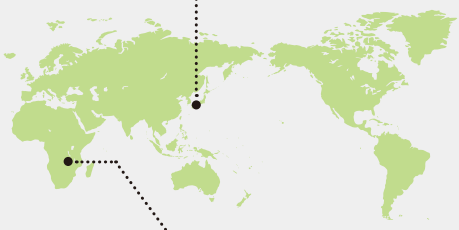
［職場］愛媛県
［職業］会社員

現在 愛媛県



赴任国 ザンビア共和国

［赴任地］ 中央州カブエ郡カブエ
［職種］ 青少年活動
［派遣期間］ 2015年6月～2017年6月

協力隊が結んだアフリカとの縁 これからは地元にその縁を繋げたい

作道 若菜さん　株式会社フェローシステム 就労継続支援B型事業所生活支援員
Wakana Sakudo

**ザンビアの小学校で、子どもたちに学ぶ楽しさを教えつつ、子どもたちから多くのことを学ばされた。
今は、故郷の愛媛で人と人とを繋ぎ、アフリカをアピールする仕事に全力投球中。
協力隊の経験で得たアフリカとの縁が、生きる原動力になっている。**

小さな頃からの憧れだった 青年海外協力隊に

肩からさげた、鮮やかなアフリカンプリントのトートバッグ。作道さんが今、力を入れているプロジェクトの製品だ。勤めている株式会社フェローシステムが運営する作業所で、アフリカの布を使ったバッグやアクセサリーを、障がいがある人たちと一緒に作っている。

小学生の頃から青年海外協力隊に興味があったが、決定的だったのは高校生の時、協力隊OGの話を聞いたことだった。子どもたちの笑顔と、何よりもその人が素敵で、私も絶対に参加しようと決意した。

大学進学の時も協力隊で役に立ちそうな、日本語教師の資格がとれる学部を選んだ。サークル活動でインドネシアへ行き、2週間のボランティア活動も体験した。念願がかない、卒業後間もない2015年6月、南部アフリカの国ザンビアに派遣されることに。

小学校に配属され、算数や理科、体育を教えた。雨が降ると来ない先生の穴埋めに他の教科も教えたり、体罰をめぐって先生たちとぶつかったりもした。

子どもたちの力を もっと引き出したい

「自分にできることって少ないんだな、と痛感しました。日本で勉強したことが正しいのか、現地の人に合っているのかと思い悩み、私にできるのは一方的に教えるのではなく、何かを提示して相手に選んでもらうことだ、と考えたのです」

物も人も不足している中で、今ある物を使って工夫して、子どもたちに勉強する楽しさを知ってほしい、もっと力を引き出したい、と奮闘した。一生懸命に教材作りをしたら、それを見て教材作りをする先生が増えた時は嬉しかった。

利用者さんたちと一緒に作業する時間には、多くの学びと楽しさがある。

大胆な絵柄と色彩のアフリカの布を上手に活用して、魅力的な商品に仕上げる。

会社はアットホームな雰囲気。保護施設から引き取った犬もいて、仕事の疲れを和ませる。

協力隊経験を経て、ものの見方がほぼ180度変わった、と作道さんは言う。「自分がいかに小さいかを知って、周りの人に学ぼうという気持ちが生まれました。それに、自分で考えて行動しよう、何でも楽しもう、という姿勢も」

帰国後のある日、友人のお父さんから電話があり、アフリカの留学生と一緒にいるから来ないか、と誘われた。駆けつけた席に株式会社フェローシステムの社長もいた。ABE留学生インターンシップ制度で、日本の大学で学ぶアフリカからの留学生をインターンとして受け入れている会社だった。興味を惹かれた作道さんは、翌日さっそく会社見学に行き、アルバイトを始めることになった。

アルバイトをしながらも、進路に関してはかなり迷っていた。気持ちが固まったのは、子どもの貧困を解決するためのプロジェクトに携わった時だ。

「アフリカの子どもたちはたくましいんですよ。靴くらい自分で修理するし、料理していて包丁がなければ鍋の蓋でトマトを切る。生活の中で自分が役に立っていることを知っているから、自己肯定感がとても高い。この強さを日本の子どもたちにも伝えたいと思いました。子どもたちに夢を持って前向きに生きてほしい。それは日本でもアフリカでも同じです」

協力隊でアフリカとの縁ができた。今度はここ愛媛に、アフリカとの縁を広めたい。縁を大切にするような生き方をしたい。この会社ならスタッフも協力隊経験を大事にし、応援してくれる。2018年10月、作道さんは正社員になった。

アフリカを イメージアップしよう

いろんな背景の人と関わる面白さがあるのに「障がい者と健常者」「日本人と外国人」というくくりで、壁ができてしまうのはもったいないと思う。手話や翻訳機など、いくらでも分かり合える手段はあるのに、と。

異文化に一人で飛び込んで試行錯誤した経験は、仕事での人間関係にも役立っている。何かトラブルが生じた時、相手の背景を考えてみる。どうしてそういう考え方をするのかが分かれば、違うアプローチができる。相手を大切にしようという気持ちが伝われば道は開ける。

作道 若菜さん プロフィール

愛媛県出身。大学で教育学を学び、卒業後すぐの2015年6月、青年海外協力隊員としてザンビアへ。小学校で算数や理科、ICTを教え、教材作りや教員向けにパソコンのワークショップも。帰国後、株式会社フェローシステムでアルバイト、2018年10月から正社員に。現在は就労継続支援B型事業所で障がい者の生活支援員として働く。

アフリカの布を使ったプロジェクトはまだ立ち上がったばかりだ。幸いにも商品は好評、これからはクオリティを上げ、作る量も増やしていきたい。アフリカというとまだネガティブなイメージに偏りがちだが、少しでもプラスの方向に変えられたらと願っている。

個人的な活動として、小学校などへ出前講座に行き、小学生にアフリカの話をしている。アフリカのポジティブな面を伝えたいからだ。熱心に聞いてくれる子が多く、質問も積極的に飛び交う。

2018年7月に会社はマラウィに支社を開設した。「いつかはまたアフリカで働いてみたいけれど、今の仕事が楽しくて」と作道さん。日本とアフリカを繋げる仕事に生きがいを感じている。

作道さんへのエール！

株式会社フェローシステム
常務取締役
高岡 和幸さん

前向きパワーで周りを変えられる人

明るくて前向きな作道さんには、周りを巻き込むパワーがあるんです。垣根がなくて何にでもぶつかっていける。人と人の間の壁をなくす力を持っている。だから、会社という枠の中にとらわれないでほしい。世界や世の中に目を向けて、夢を実現するために、ここで成長して大きくなってほしいと思っています。実をいうと、けっこう尊敬しているんですよ（笑）。